

北部地域共助SDGs「未来のために今できること」 活動紹介（テキスト版）

一般社団法人アツいまちの中島でございます。

本日は、北部地域共助SDGsフォーラムの活動紹介というところで、弊社のご紹介をさせていただければと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

さて、アツいまちというところと、SDGsというところで、今回お話をさせていただくのですが、一つクイズをしてみたいと思います。以下の4つの中で、日本最高気温を観測している都市はどこでしょう。

北部地域というところで、ピンとくる方もいらっしゃるかと思うのですが、この中でいうと、埼玉県熊谷市、2番の埼玉県熊谷市が国内最高気温を2018年に記録をしているというところでございます。41.1度というところで、2018年7月23日午後2時23分に、熊谷市で国内観測史上初となる41.1度を記録したというような記録になっております。

さて、もう一つちょっとこの流れでクイズをさせてもらえればと思うのですが、2020年、実は41.1度を出した都市がございました。さて、そちらの都市はどちらでしょう。

わかりましたね。正解はこちら3番の静岡県浜松市でございます。8月17日の11時50分に、国内最高気温41.1度を記録したというのが気象庁の記録の方に残っております。

一般社団法人アツいまちとは、暑さ日本一の記録を持つ、埼玉県熊谷市、今年から参画いただきます静岡県浜松市、過去に日本一の記録を保持していた高知県四万十市、岐阜県多治見市、山形県山形市の民間団体がタッグを組み結成した組織でございます。「アツいまちを住みやすくするために私達にできること」を理念に掲げて、全国各地で暑さに負けない持続可能な社会の実現に向けて、実証実験や啓蒙活動など取り組んでおります。

詳しい活動内容につきましては、この後、具体的にご説明させていただきますが、簡単に申し上げますと、「アツいまちサミット」の開催ですとか、暑さに負けないためのグリーンカーテン、空中スイカというですね、グリーンカーテンの取組ですとか、その他企業様と連携した暑さ対策につながるような取組を中心に活動をさせていただいています。

また、アツいまちの理念、ビジョンというところでご紹介をさせていただきますと、「アツいまちを住みやすくするために私達にできること」というところで、「日本の

暑さの先進都市が SDGs を踏まえてアツさに負けない経験とアイデアを共有し、持続可能な社会の実現を目指します」というところを理念に掲げています。

具体的に3つ項目がございまして、「元気に活動できる環境をつくります」というところと、「いきいきとした人間関係を構築します」というところ。また観光都市であるところも多いですので、「訪れたいまちづくり、住みたいまちづくりを実現しますよ」ということを理念に掲げています。

また、未来に対して、こんなことをやっていきたいというところで、テーマを「私の地域を誇りに思えるようにする」ということで設定をさせていただいて、発信交流革新というところを大きく掲げています。

発信としては、「アツさ対策を全国世界と共有し、持続可能な社会の実現を目指します」。

交流というところで、今、都市が連携をして取り組んでおりますが、「アツい街同士の交流を促進しますよ」というところ。

最後、革新というところで、やはりアツいまちというと、暑くて住みづらいんじゃないかとか、そんなわざわざアツいまちに行かなくてもというふうに思われることも多々ありますので、アツい街のイメージアップにもつなげるというところを革新のテーマとして掲げています。

具体的に、昨年の取組 2020 年の取組をご紹介します。

昨年は新型コロナウイルスもありまして、人が集まって活動するということがかなり難しい環境でございました。例年ですと、人が集まって、みんなでアイデアを出し合って、アツいまちとして今年はどうなことに取り組んでいくのだろうというお話をしていますが、昨年は、テーマを「おうち時間と熱中症対策」というふうに掲げまして、やはりご自宅でも熱中症になる方、家にいても脱水症状になってしまう方というのがかなり多いというふうにデータに出しておりますので、そこを改善しようという取組を行わせていただきました。

では、2020 年のサミットの内容をご紹介します。

2020 年のサミットは、各市インターネットを通じて Web での参加形式で実施をさせていただきました。熊谷だけは少人数で会場にてサミットを行いましたけれども、各市がその会場に対してインターネットを通じて参加をさせていただいて、2020 年の夏の取組を発表するというような形になりました。

熊谷では、郷土の踊りをおうち時間という形で行ってもらいまして、動くことで、水分補給、汗をかくというところで、熱中症対策を行うというような企画を行いました。実際には、インターネットを通じて、直実節を YouTube でライブ配信したりですか、9 月頃にコロナが少し落ち着いてきて、対策をしながらイベントも行っていき

ましようというような空気感が出てきたタイミングで、本当にいろんなアルコールですとか、検温ですとか、対策をして、会場で踊れるようなイベント自体も開催することができました。YouTube ライブ配信は数百人の単位の方が見ていただきまして、おうちで郷土の踊りを熊谷に限らず、色々な地域の方に見ていただいて、実施していただけたかなというふうに感じております。

また、高知県四万十市では、作付面積が国内一位の米ナスという特産品を使った取組を SNS を通じて配信発信して参りました。

多治見市では、ひや盛りという美濃焼を活用した取組を実施しまして、山形県山形市は、郷土料理である水まんまを通じた、こちらも SNS をうまく活用して、情報発信、熱中症対策を呼びかけたというところでございます。

先ほど、例年ですと会場に集まってというようなお話をさせていただきましたが、一昨年ですね、2019 年には「アツいまちの涼活」という形で、4 市が集まって色々な取組、活動のご紹介をさせていただいたというところでございます。

熊谷では、地元には本社を置く梅林堂様と提携をさせていただいて、商品の PR、開発等をさせていただきました。

また、2020 年の事業といたしまして、空中スイカという取組を行っております。こちらは、軒先にスイカを植えまして、そこで皆さんに育てていただいて、グリーンカーテンの促進をするという事業でございます。

特に 2020 年は新型コロナウイルスの影響で、人と接触する機会が極端に減ったという年でもございましたので、商店街を中心にスイカを植えていただいて、散歩をされる方だったりとか、隣同士の、地域が狭い範囲ですけれども、地域間の連携というところにも寄与したというふうに自負しております。

さて、これまで活動を紹介させていただきましたが、アツいまちの SDGs の関係ということで、最後ご説明をさせていただいて、今回の活動紹介に代えさせていただければと思うのですが、問題意識として、SDGs の 11 番「住み続けられるまちづくりを」というところを目的に掲げています。

問題意識としては、大好きな地域のために何かしたいということが各地域の思いでありまして、その目的を達成するための手段として、やはり日本一暑いまちというところの、13 番ですね、日本有数の暑さというものを活用して、暑さ対策をすることで、11 番の目的を達成しようという取組を目指しました。

そして、17 番の「パートナーシップで目的を達成しよう」というところで、日本一暑いまち、問題意識を抱えているメンバーが国内にたくさんいるというところで、そのメンバーと連携をしてパートナーシップを組んで、11 番のまちづくりにつなげてきたというところでございます。

結果、効果といたしましては、8番の「働きがいも経済成長も」というところで、地域を盛り上げることに伴い、商品開発ですとか、地域間の連携による経済効果というものを生み出しております。

また、9番の「産業と技術革新の基盤をつくろう」というテーマを行っております、産業も活性化させて、かつ暑いまちという視点で、価値を見つけて広める、また、地域のメンバーと共に価値をみんなで作るという取組を行っております。

このように、一つの目的から方法だったり、効果というところで、SDGsという視点がかかりできてきているなというふうに思っています。

SDGs といいますと、難しいのではないかとというふうに考えられる方も多いのではないかなというふうに思いますが、一つの取組から、色々な派生、関係を作ることができますし、かつ、その関係の中で、一つ一つできることをやっていくことが、SDGsの拡大、また、各地の取組の拡大につながっていくのかなあというふうに思っています。

今年も、夏になりますと、一般社団法人アツいまちは5市で、暑い地域の、私自身にできる取組というものを実施して参ります。新型コロナウイルスがどうなのかちょっとわからないところはありますけれども、積極的に地域のために、また暑さ対策につながるような取組を行っていければというふうに思っています。

以上、一般社団法人アツいまちより北部地域共助 SDGs フォーラムの活動紹介をさせていただきます。

本日はご清聴いただきまして、誠にありがとうございました。